

地方の建設コンサルタント業の現状と未来、強靱な地域経済を目指して:LRRI へ期待すること

地方の建設コンサルタント業は、地域社会のインフラを支えるホームドクターとして重要な役割を担っています。しかし、近年、人手不足や高齢化、技術力の維持など、様々な課題に直面しています。

【現状】

■人財確保の難しさ： 土木工学系の卒業生が減少する中、採用、定着、技術力向上といった人財確保が困難になっています。特に中小・零細企業では、待遇面やキャリアパスの魅力不足から、若手技術者の獲得に苦勞しており、女性・高齢者・専門外の採用で凌いでいます。

■教育の課題： 技術者の高齢化が進み、若手への技術伝承が十分に行われていません。また、大学教育では、スペシャリスト養成に偏りがちで、地方の建設コンサルタント業で求められるゼネラリストとしての能力育成が不足しています。オーダーメイド型の土木技術教育施設の創設が望まれます。

■仕事の多様性： インフラの老朽化が進む中、建設コンサルタントは高度な専門知識だけでなく、様々な業務に対応できる能力が求められています。ホームドクター的な役割を担い、地域社会のニーズに応える必要があります。

■資格取得の負担： 業務多忙な中で、資格取得のための勉強時間を確保することが難しい状況です。資格取得支援制度の充実や、業務効率化による時間捻出が求められます。

【未来への展望】

■土木の DX・AI 導入： 建設業界全体の生産性向上に向け、ICT を活用した業務効率化や、AI による解析・設計支援などが期待されます。地方の建設コンサルタント業においても、これらの技術を積極的に導入し、生産性向上を図る必要があります。

■人を中心としたビジョン： 技術の進展に加えて、最終的には「人」が重要であるという認識が必要です。地域社会のニーズを的確に把握し、住民に寄り添う姿勢が求められます。三方よしの精神。

■強靱な地域経済の実現： 未来に向け「夢と希望」の持てる「イマジネーション（想像力）」を働かせた地方創成に向けた新たなビジョンを描く必要があります。例えば、常磐新幹線・TX の茨城空港延伸・茨城空港の首都圏第三空港化などのインフラ整備を契機に強靱な地域経済実現を提唱し続ける。

【土木、特に建設コンサルタント業への関心の醸成】

一般の人達には”建設コンサルタント業”が分かりづらく関心を持って頂いていない状況であると感じています。土木コンサルタントの仕事の面白さや社会貢献性を分かりやすく伝える必要があります。

■小中学生への啓発：興味を持たせるための玩具やゲームなどで土木的なことや建設コンサルタント的な啓発運動が出来ないか？関心を持たせるためにはどうするか？

■高校生・大学生へのアピール：キャリアパスの多様性や、地域社会への貢献性を強調し、建設コンサルタント業の魅力を発信する必要があります。興味・関心を持って頂ける身近な啓発方法は？どのようなことがあるか？

■企業・大学・自治体の連携：インターンシップ制度の充実や、共同研究の実施など、学生と企業との接点を増やす必要があります。LRRRI などを含めた各種団体との連携により、土木系事業の興味・関心並びに啓発を継続的に実施して行くことが重要であります。

【まとめ】

地方の建設コンサルタント業は、課題を抱えながらも、地域社会にとって不可欠な存在です。DX・AI 導入による生産性向上、人を中心としたビジョン、そして地域創生への貢献を通じて、未来に向けて発展していくことが期待されます。そのためには、土木、特に建設コンサルタント業への関心を高め、優秀な人材を確保・育成することが重要です。そのための県内での関係組織の懇談会等の構築とコーディネーターの役割を LRRRI が果たしていただきたいと期待しております。

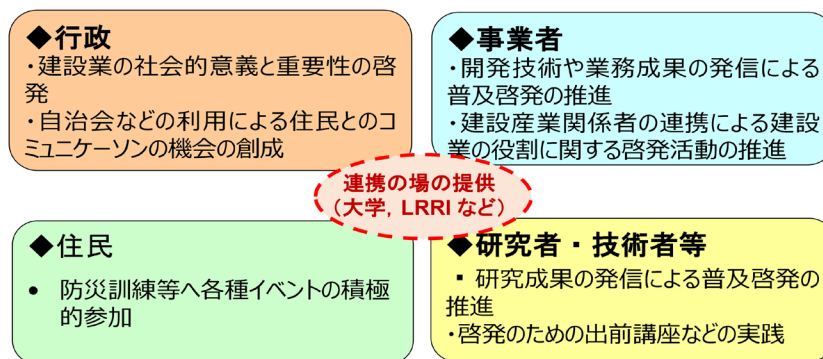


図-1 関係者の連携に果たす LRRRI の役割への期待

(賛助会員：(株)高萩エンジニアリング 橋本義隆

(茨城県建設コンサルタンツ協会会長))